

会議録

連絡日時 平成20年7月5日

進 行 秋 元

記 録 浅 田

■議 題 平成20年度 第1回 学校協議会

■開催日時 平成20年7月5日

■開催場所 本校 応接室

■出席者 [委員] 入江さん 柿原さん 加治佐さん 芝井さん
竹川さん 立石さん 宮坂さん

[学校] 松本(校長) 秋元(教頭) 小野(事務長) 山本(首席・学習指導室長)
堀(指導教諭・学校運営室長) 奥谷(生活指導室長) 浅田(学年室長)

■学校長挨拶

①本校は、開校6年目を迎えた今、保護者や地域の方々からいろいろな面で一定の評価を得るに至っている。

②今後、10周年を目標に、次の段階へと飛躍したい。

③本校の開校から現在に至るまでの取組を踏まえて、各協議会委員より提言をいただきたい。

④委員紹介

⑤事務局紹介

⑥本協議会の今年度の座長を、現PTA会長の竹川委員に委嘱する。

■議事内容

1. 学校の取組の現状……山本(首席・学習指導室長)

(1)本校が「育てる生徒像」について — 4つの教育目標 —

- ・平成11年度に策定された「教育改革プログラム」の求める先駆的な学校として取組を進めている。
- ・「教育改革プログラム」では、「学力低下」の問題については触れられていないが、本校では、「学力の向上」及び「安心で安全な学校づくり」を重点課題とすることによって府民からの信頼を得る、いわば、「公立高校の復権」をめざすものである。
- ・開校からの5年間に、「教育の量」をしっかりと施してきた自負がある。
- ・「学力の向上」「規範意識の確立」をはじめとする本校の様々な特徴的な取組については、保護者の理解と指示を得ている実感がある。

(2)教育課程について

(3)学力向上の取組について

①長期休業中（夏季・冬季・春季）の講習の実施

②毎土曜講習の実施

※第6期生を迎えた今年度は、受講希望者が急増の傾向にある。在籍者数約750名の内、約400名が登校して学習活動を、また、その他多数が部活動を行っている実態がある。

③1年生のホームルーム学習合宿の実施

※中学校から高校へと学習スタイルを切り替え、日常生活の中への「勉強」の定着を図ることを目的としている。5月上旬に1泊2日で実施。

④2・3年生対象の勉強合宿の実施

※「与える」学習から「自ら行う」学習へと学習に対する積極的な空気を醸成し、進路を切り拓くための学習と位置づけ、自習スタイルを中心としている。

2年生は10月中旬に、3年生は7月下旬に2泊3日で実施。

⑤「一日勉強会」の実施

※早朝からの9時間、自習室を使用して「思いっきり」勉強する自習スタイルの学習。

(4)「単位制」であることについて

(5)校内の実情について

- ・新任教員をはじめ若い先生が多く、チームワークで取組を進めることができる。
- ・意思決定機関のスリム化を図り、決定までの流れのわかりやすさに努めている。

(6)「学力低下」及び「規範意識」の問題にいち早く取り組んだことについて。

(7)大阪府知事の進める「進学指導重点校(仮称)」に名乗りを上げたことについて。

※本校の取組を確実に実りあるものとするため、行政からもより一層支持される学校となるため。

(8)梶の木が頑張れるエネルギー源について

※合格者説明会時に行う「保護者アンケート」に書いて寄せられる熱い思いが我々教職員を突き動かす。我が子の成長への願いと本校への期待。

(9)これまでの5年間の取組に対する評価について

※6年目を迎えた今年度、成果を上げているものをより工夫を加えつつ「育て」、成果の乏しいものは思い切って「止め」、そして、新しい成果を求めて新規の取組を「始める」といった、数々の取組を整理する段階にきている。

2. 本校の取組の現況報告を受けて

〔加治佐委員〕 府知事の進める「進学指導重点校」とは何か。

〔宮坂委員〕 学力や部活動、芸術などを含めたいろいろな分野で特色を有する、「日本一の公立高校」を育成する方向を打ち出したもの。実践力で日本一をめざせということだろう。

〔山本室長〕 本校の次の課題となるものは何か。ペーパーの学力を上げるだけでは府民の支持は得られないだろう。確かな学力、ほんとうの学力を養うことが肝要と考える。

現在、3年次で教育課程に組み込んでいる科目「探究」を1・2年次から実施できないかを模索している。自ら研究し自ら発信する姿勢を育て、「大学で頑張る子」を育成したい。

〔入江委員〕 「基礎・基本」を「活用する力」に結び付ける具体的な取組はないのか。

〔山本室長〕 個別の取組は今のところないが、経験値を上げる取組を積み重ねていく方向にある。

〔芝井委員〕 大学では、表現・判断・議論する力、いわば、リーダーシップを育てる導入として、レポートの書き方、ノートのとり方、板書の仕方等の導入教育を実践している。これは、社会人基礎力を高めるべきという企業社会の要請とも考えられる。よって、学士課程の教育でどれだけの学力を身につけたかを検証する必要があると考えている。

〔堀室長〕 本校の課題としては、生徒が自主的に課題を見つけ、それに向かって自ら取り組む学習ができないものかと考えている。それには、「量」から「質」への授業の改革が求められるだろう。また、授業のみではなく、部活動や学校行事にかかわっても、議論できる力を育てる環境づくりが必要である。

〔宮坂委員〕 現況では、社会人基礎力の育成ができていない学校が多いように思われる。貴校においては、生徒がペーパーの学力とともに、社会人基礎力やその他の力を総合的に身につけるよう、リーダー校として取り組んでいくべきではないか。例えば、課題毎に生徒委員会の組織を立ち上げるなど、人間関係や集団づくりを行うなかで、議論し合いながら課題解決を図っていくことも方法の一つとなるだろう。

〔加治佐委員〕 ユーザーの満足度が高いという点から、貴校の過去5年間の成果は十分認められる。「いい学校」の定義としては、①ユーザーの満足度が高いこと、

②雰囲気の良い学校、③働く人の成長感があること、④取組の成果が上がっていること（伸びしろが高いこと）などがその要素となる。

なかでも、④伸びしろが高いという点については、貴校において、客観的に数字が上がること、すなわち、過去3年間の進学実績どうとらえるかという問題がある。全国レベルで考えた場合の大阪の公立高校の進学率の低さを考え合わせると疑問が生じる。

全国レベルでも高い進学実績を伴う「進学校」を、本当にめざすのか。取組のあれもこれにも掛けるエネルギーを、進学実績、実際の数字を上げることに集中させるべきではないのか。いい生徒づくり、いいムードづくりとの両立は困難ではないかということである。「進学指導重点校」に名乗りを上げるとは、そういうことを意味するのだと考える。今こそ、学校長の判断と決断を要するのではないか。

〔立石委員〕 大阪の子どもの学力が低いとされる、その原因は何か。

〔芝井委員〕 「現役が強くない」（高校での教育が充実しているのか）などが原因と考えられる。これは、学生の質が悪いということではなく、他県の学生ほどの迫力がないということである。

〔加治佐委員〕 大阪の公立高校の取組が甘いと言えよう。だからこそ、今、貴校榎の木が注目されているのだ。

3. 各委員よりの提言

〔立石委員〕 貴校の取組は充実しているとの実感を得た。今後より一層の発展を願う。アメリカでは、親が教育ボランティアとしてかかわるなど、学校は地域に支えられている。

今後、卒業生等ともつながりを保ちつつ、学校教育への地域ボランティアの活用を考えてはどうか。

〔入江委員〕 これまで学校教育が第一義としてきた「基礎・基本大切にする」から、それに加えて「できる子をもっと伸ばす」という視点を活かした教育の実践を望みたい。地域の中の「榎の木」として今後どのように生きるかが課題ではないか。

〔柿原委員〕 昨今、本気に取組人々が少ないなか、貴校の教職員のガンバリは評価できる。

今後は、人間形成に重大な影響を及ぼす「人」の教育を、「人」をどうつくるかの教育を進めてほしい。

〔加治佐委員〕 貴校の、「伸び続けなければならない」ことへのプレッシャーは相当なものだろうと推察する。今の貴校の学校づくりの路線は決して間違っていない。しかし、今後は取組の取捨選択を行うべきだ。間違ったら直す、時には、止まるというように。

〔芝井委員〕 様々な取組の成果を見極める力を持つべきだ。そして、社会に開かれていく学校となるよう、見守り、見張ってくれ、時には助けてくれる存在としての地域や保護者、卒業生ボランティアなど、外部リソースをマネジメントしながら活かしていくことが必要ではないか。

〔竹川委員〕 一定の成果が出ていると感じる。その成果が教職員の自信につながっているのではないか。

今後の課題として、学力のみではなく、子どもを「人として」どう育てるのかという観点に立って、知識だけではなく、意識の高い子どもを育てるための実践を重ねてほしい。問題解決力を身につけるための能動的な学習を期待する。

〔宮坂委員〕 やりきる姿勢、疑問を持つ、持ったら調べるなどの「榎の木スピリット」を校風までに育てるべきだ。

また、成果に至る筋道がわかっている人、ゴール（成果）を共有できる人としての地域の人や学校支援NPOなどを、マネジメントしながら教育活動に取り組むべきではないか。

4. 事務連絡

今後の予定 第2回学校協議会：12月の土曜日
第3回学校協議会：3月の土曜日

以上